

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)MJR高取	階数	地上10F
建設地	福岡県福岡市早良区昭代3丁目22	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、法22条地域、第2	平均居住人員	216 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2020年7月4日
敷地面積	2,223 m <sup>2</sup>	作成者	渡邊 浩之
建築面積	762 m <sup>2</sup>	確認日	2020年7月6日
延床面積	5,235 m <sup>2</sup>	確認者	楠本 孝徳



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 62% (85.5 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 62% (85.5 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 62% (85.5 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・建築物の形状をシンプルな形にした ・仕上材の種類を少なくするように配慮した ・周囲の環境に配慮した	<b>その他</b> 特になし	
<b>Q1 室内環境</b> ・適度に開口部を設けて通風に配慮した ・居室の建具に複層ガラスを採用し、内装材はすべてF☆☆☆☆とした	<b>Q2 サービス性能</b> ・居室天井高を2.45mとし、快適な住環境となるように配慮した	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・植栽帯をなるべく多く配置した
<b>LR1 エネルギー</b> ・日照エネルギーを十分に確保できるよう開口部を多く採用した ・省エネに考慮した給湯器、照明機器を採用した	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・水資源確保のため、節水型便器を採用した	<b>LR3 敷地外環境</b> ・住戸数に対して100%の駐車場及び170%の駐輪場を確保した ・宅配、引越等のサービス車両専用の駐車場を設置した

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される